



株主・投資家の皆さまへ
2019年3月期 | No.57



ほかにはない
アンサーを。

CONTENTS

特別対談潮流

白河桃子

相模女子大学客員教授
「働き方改革実現会議」
有識者議員

井上 亮

取締役 兼 代表執行役社長・
グループCEO

オリックスレビュー

トピックス

オリックスの新たな取り組み

社会貢献活動

オリックス・バファローズ
ニュース



黒部・宇奈月温泉 やまのは



松伏ロジスティクスセンター



社員の多様性、個性を最大限に生かし 社会に価値をもたらす会社を目指して

労働生産性の向上や多様な働き方の実現が喫緊の社会課題となる中で、多くの企業が「働き方改革」の動きを加速させています。オリックスでは、世の中のニーズを察知し、新たな価値を社会にもたらすため、社会情勢に先駆けて多様な人材の活用に取り組んできました。そして2016年10月には、グループCEO直轄の「職場改革推進プロジェクト」を立ち上げ、新たな取り組みも進めています。

今号では、企業の成長に欠かせない「人材活用」をテーマに、相模女子大学客員教授で、「働き方改革実現会議」有識者議員を務めた白河桃子氏とグループCEOの井上亮が対談しました。

所定労働時間の短縮が、 仕事効率化の意識を高める

白河 オリックスでは多様な人材が活躍されていますね。近年の「働き方改革」への取り組みが、それぞれの能力や専門性を生かした人材活用をさらに推し進めていると感じています。特に驚いたのは、2017年に実施された所定労働時間の短縮です。国内でこれを実施する企業は、ほとんどありません。

井上 所定労働時間の短縮は、2016年に開始した「職場改革推進プロジェクト」の一環として実施したものです。終業時刻を17時20分から17時に変更し、所定労働時間を20分短縮しました。給与変更を行わずに実施し、「働き方改革」の大きなテーマである生産性向上と長時間労働の是正につなげる目的でした。社内からは、職場の雰囲気が引き締まったという良い報告も受けています。業務効率を意識しながら、集中して仕事に取り組む文化が育ってきています。

白河 「たった20分」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、この20分を縮めるだけで、時間に制約がある人たちの働きやすさは断然違

います。17時に退社すれば保育園の迎えの時間に間に合うというワーキングマザーも多いと聞きます。「時短勤務」とせずに、終業時刻まで働けるようになった方も多いのではないのでしょうか。

また、特に素晴らしいと考えるのは、「子育て中」などに限定するのではなく、社員全員を対象にしているということです。フェアな土壌が形成されます。経営者は、社員に少しでも長時間働いてもらって、より多くのアウトプットを出して欲しいと考えがちです。つまり、働くこと＝アウトプットだと思っている経営者がいまだに多いと感じています。井上CEOは違うようですね。

井上 がんばることと成果を出すことは違いますが、長時間労働ががんばることでもありません。それに、がんばり続けてしまうと、あるとき「ポキン」と折れてしまう人材がいるのです。その損失の方が大きいと思っています。

白河 毎日のように長時間仕事をして、あるとき急に体力や精神力の限界を迎えてしまう。そういう人をなくすためにも、職場の働き方を改善することが重要ですね。

白河 桃子

相模女子大学客員教授
「働き方改革実現会議」有識者議員



井上 亮

取締役 兼 代表執行役社長・グループCEO



がんばる人材の “折れてしまう”をなくす

井上 白河さんは女性活躍の問題にも取り組まれているのでお話ししますが、優秀な女性社員があるとき突然辞めてしまうということに悩んでいました。

白河 興味深いお話ですね。頑張りすぎて折れてしまう女性社員が多いのでしょうか。

井上 オリックスは男女雇用機会均等法の成立以前から、女性を一般職(現在の総合職全国型)として採用し、営業を含めたさまざまな部門に配属

してきました。当時、そうした企業はほとんどなかったため、オリックスには多くの優秀な女性が入社してくれました。ところが、入社後10年くらいが経過した時期に、本来なら自身の裁量で仕事を進められるようになって面白くなっていくタイミングであるにもかかわらず、急に辞表を出されてしまうケースが見られました。まじめに働き過ぎて、折れてしまったと言うのです。優秀な社員でしたから、海外でMBAを取得されるなど、その後もビジネス界で一層活躍されています。オリックスとしては、とても残念なことです。

白河 オリックスは現在、女性管理職の比率が約20%*ですね。これは日本企業の中ではとても優秀な数字ですが、そうなってしまった人がいなければもっと増えていたかもしれませんね。

井上 本当にそうです。女性比率という意味ではなく、純粋に優れた人材が会社を去ってしまうことは、大きな損失です。「職場改革推進プロジェクト」を含めた働き方改革には、すべての人材の能力を引き出し、フェアに評価したいという意思を込めています。優れた人材は性別などに関係なく評価し、さらにステップアップした仕事や役職を任せたいですから。

白河 女性社員の昇進と言えば、女性役員がいない会社に対して、議決権を行使するという海外の投資会社も出てきています。上場企業として、こうした動きについて何らかの対応を考えていますか。

* オリックス単体。2018年3月時点。



井上 女性役員比率を高めることは簡単です。単純に増やせばいいわけですから。しかし、それでは何の意味もありません。役員には、経営責任があります。だれもが認める人材が務めるべきでしょう。

白河 確かに女性を「優遇」するのは本質を取り違えています。井上CEOにそう明言していただかないと、女性役員も居心地が悪くなってしまいそうです。オリックスの施策が素晴らしいと感じるのは、すべての社員に公平に機会を与えていることです。

井上 ありがとうございます。私たちが目指しているのは、性別、スキル、バックグラウンド、国籍、年齢など、多様性を生かし、だれもが活躍できる職場です。オリックスグループは、さまざまな領域で事業を展開しています。部門やグループ会社間で壁をつくらず、多様な社員が協業することで、新たな価値を世の中にもたらしていきたいと考えています。

社員の能力を最大限に引き出し 社会に価値をもたらす

白河 働き方改革に取り組んでいて感じるのは、かつての「モノ中心、機械中心」から、「人中心」へ、という流れが起きていることです。人中心ということは、多様な人を受け入れ、だれもがその能力を存分に発揮できる文化が必要になるということと同義でしょう。先ほどの井上CEOのお話と重なるところがありますね。オリックスは、創業時から人中心の経営をされてきて、いまやグローバルに事業を展開されています。多様な人材の専門性や価値観を生かすことで、社会の変化を捉え、柔軟にビジネスを進化させてきたのですね。

井上 人材は私たちのビジネスにとって最も大切な構成要素です。昔は、新人を現場に出して、すべての業務プロセスを一人に一気通貫して担当させていました。そのため、実践を通して、金融をはじめとした専門知識を若手社員のころから習得



白河 桃子 氏

相模女子大学客員教授

「働き方改革実現会議」有識者議員

慶應義塾大学文学部卒業後、総合商社などを経てジャーナリスト、作家に。働き方改革、ダイバーシティなどをテーマに活動。

してきたのです。ただ、組織が大きくなりましたから、いまは状況が違います。散見されるセクショナリズムは、これから打破していかなければならない課題として認識しています。

白河 オリックスは、2005年から「キャリアチャレンジ制度」(社員が異動を希望する部門と直接接点を持ち、双方で合意が成立した場合は異動が実現し、キャリアアップにつなげることができる制度)を導入されていますね。この制度を使えば、まるでプロ野球のFA宣言のように、部門や会社にかかわらず異動にチャレンジできます。とても面白い取り組みだなと感じます。人材の交流は、セクショナリズムを生みにくくする効果もあります。

井上 実は、部門や会社を越えた人事異動は、「キャリアチャレンジ制度」以外の通常の人事異動においても、他社と比べるとかなり多い方だと思います。

まず、「キャリアチャレンジ制度」は、組織の活性化のために導入した施策で、社員が自分の今後のキャリアを見つめ直すきっかけになることを期待しています。さらに2018年からは、「45歳からのキャリアチャレンジ制度」も導入し、45歳以上の社員がこれまで培ってきたスキルをさらに能動的に発揮することを目指しています。

白河 いまは65歳まで働ける会社が多いです。45歳の人は、あと20年働くことになります。社会人

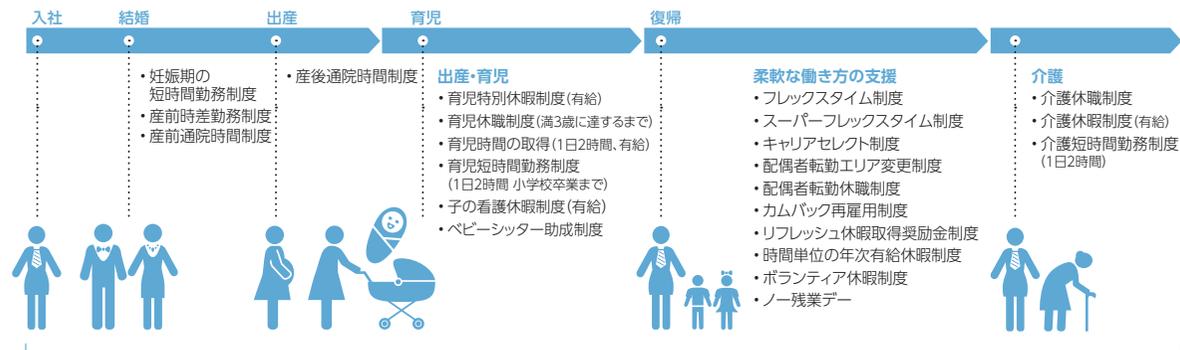
人生の約半分の期間ですよ。高齢でも意欲があれば働ける社会が推進される中で、素晴らしい制度を整えられました。

井上 オリックスは、2014年に定年を65歳に引き上げました。定年まですべての社員がそれぞれの強みを生かして活躍できる職場環境をつくっていきます。

白河 これからも先進的な施策が生まれることが期待できそうですね。今日はありがとうございました。

ライフステージやキャリアに合わせた人事制度の活用を推進

多くの社員が制度を活用し、自身のライフステージやキャリアに合わせた柔軟な働き方を実現しています。



キャリア形成支援 キャリアチャレンジ制度/社内公募制度/社内インターン制度/職種転換制度/自己申告制度/45歳からのキャリアチャレンジ制度/シニア社員向け社内公募制度

職場改革推進プロジェクトとは？



職場改革推進プロジェクトのメンバー

2016年10月、グループCEO直轄の「職場改革推進プロジェクト」が発足しました。生産性を向上させることで多様な人材が活躍できる職場を作り、多様な働き方を認め合う文化を醸成していくことをプロジェクトの目的としています。プロジェクトでは、主要グループ会社10社、200人以上の現場で働く社員で委員会を立ち上げ、約半年の期間をかけて課題・施策を検討し、約120の施策をCEOに提言しました。働き方改革の第1弾として、所定労働時間を短縮し、リフレッシュ休暇取得奨励金制度を導入しました。

2017年には、プロジェクトで発案された社員からの提言をもとに、社内インターンシップ制度や育児特別休暇制度、スーパーフレックスタイム制度を新設し、2018年4月には、1時間単位で取得できる年次有給休暇制度を新たに導入しました。

対談を終えて

ダイバーシティの本質を理解し、多様な人材が力を発揮する職場づくりを推進

白河 桃子 氏
相模女子大学客員教授
「働き方改革実現会議」有識者議員



対談終了後、白河 桃子氏から対談の内容や当社についてのご意見、ご感想を伺いました。

事業のみならず、働き方も時代に合わせて変化させている

オリックスと言えば、やはり私たちの世代にとっては昔の印象が強いのではないのでしょうか。営業力があって、猛烈に働く人たちがいて「イケイケドンドン」の社風という印象で、私も過去にはそういうイメージを持っていました。

しかし、私自身が働き方改革推進に取り組むようになってから、企業活動の内容を知り、そのイメージは払拭されました。時代の流れに合わせ、とてもスピーディーに改革を進められていますね。今日は、時代の先を行くような取り組みについて、井上CEOから直接その思いを聞くことができ、とてもいい機会になりました。

社員の幸せと企業の利益を両立させる

「働き方改革」は、リーダーシップ、インフラ、マインドセットの3つを変えていくことで実現します。社員のマインドが変われば、企業競争力の強化につながります。ですから、社員を幸せにしながら企業が利益を向上させるという好循環を生む方法があるはずですよ。

一方、単純に労働時間が減ると捉えてしまう経営者が多いのも事実です。トップが危機感を持って改革に取り組むことが成功の鍵です。井上CEOのお話から、企業風土を動かそうとする強い決意を感じることができました。

中途入社が多く、多様性のある組織は強い

井上CEOの思いに加えて、オリックスは改革を実行しやすい土壌もありそうです。

国内でキャリア入社比率が約4割*という数字は、他社の文化を知る人材が約半数を占めることを意味します。グローバル企業として外国籍の方も積極的に採用されていて、女性も活躍しています。金融事業のみならず、環境エネルギー事業、不動産事業など、事業領域は幅広く、部門や会社を越えた人事異動も活発です。このように多様な人材が常に交流している組織は、いわゆる大企業病にかかりにくい傾向があります。そして、グローバル市場で戦って勝っていくために、多様性は不可欠です。

いまダイバーシティの重要性が叫ばれていますが、残念ながら、対外的なプロモーションのために形や数字を追うだけのケースも少なくありません。本質を理解し推進するオリックスの取り組みは、学ぶところが多いと感じました。

* オリックス単体。2018年3月時点。

10期連続で増益、5期連続で過去最高益を更新 年間の新規投資額は1兆円規模に

既存事業の成長、新規投資案件からの利益寄与、マーケット環境に応じた資産の入れ替えにより、引き続き利益成長を目指します。

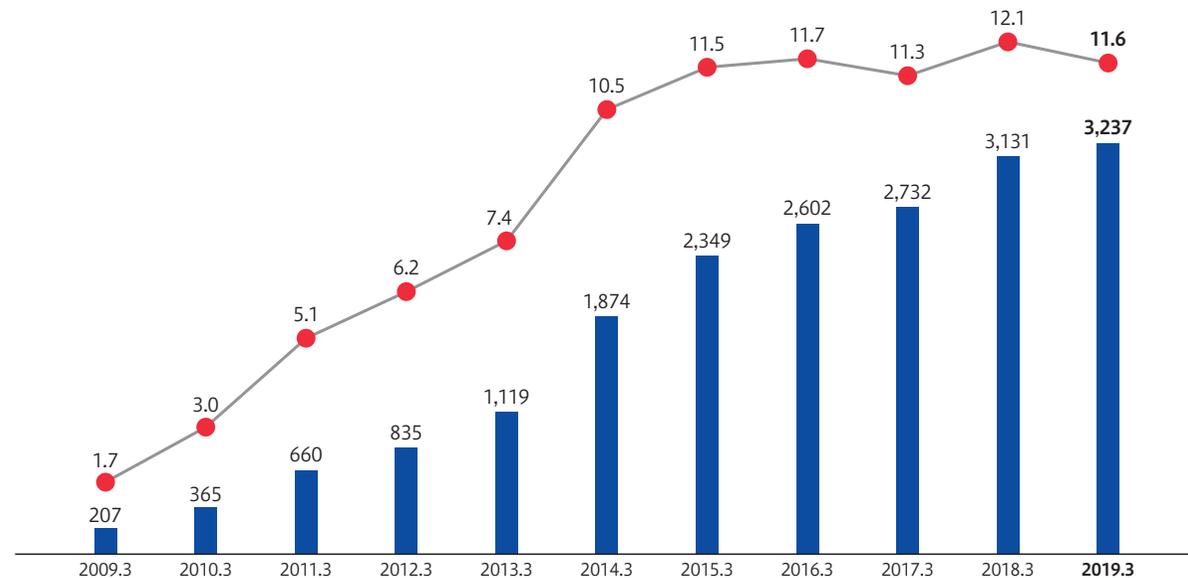
2019年3月期の実績

2019年3月期の経済動向を振り返ると、米中貿易摩擦の激化や英国のEU離脱交渉の難航などの影響から、世界経済は不透明感を増し、下半期は金融マーケットの混乱が目立ちました。こうした経済環境の影響を受けながらも、

2019年3月期の当期純利益は前期の3,131億円に対して3.4%増の3,237億円、ROEは11.6%となりました。10期連続の増益を達成するとともに、5期連続で過去最高益を更新しています。ROEは目標の11%を継続して上回り、信用格付も目標とするA格を維持しています。セグメント利益合計は前期比6%

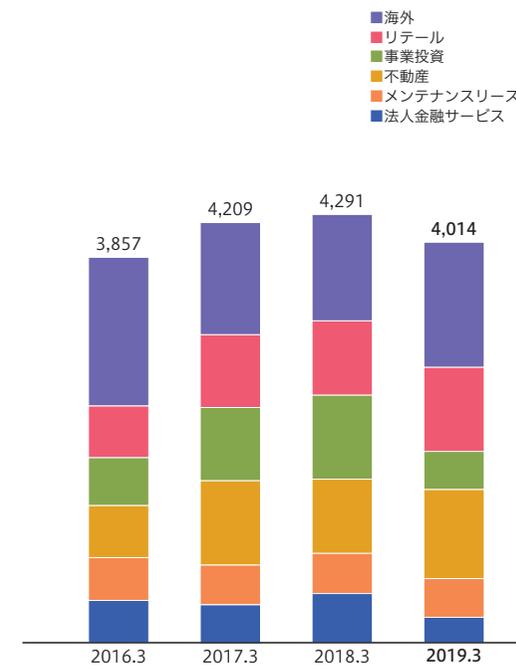
減の4,014億円となりました。セグメント資産は、前期末に比べて、約9,000億円増加した結果、前期末比10%増の9兆9,977億円になりました。各セグメントの概況については、P.11-12をご参照ください。

■ 当期純利益*(億円) ● ROE(%)

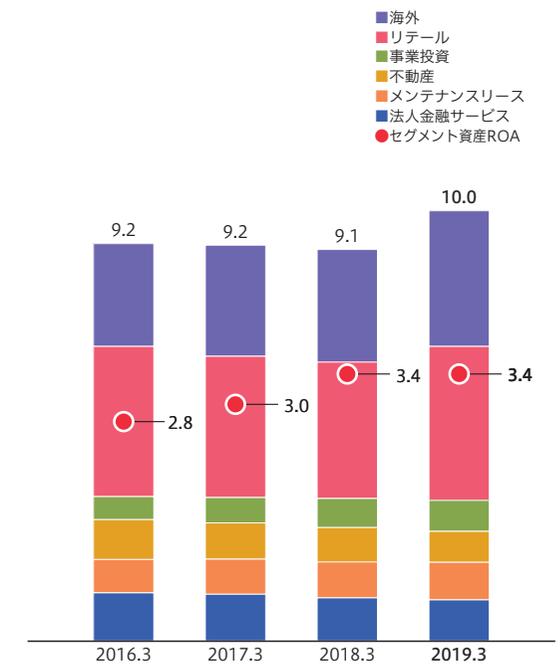


*「当期純利益」は「当社株主に帰属する当期純利益」を指します。

セグメント利益(億円)



セグメント資産(兆円)・ROA(%)



新規投資と成長戦略

2019年3月期における新規投資額は1兆200億円となりました。今後も、将来の成長に資する案件を厳選し、投資を実行していきます。

2019年3月期における大型新規投資は、航空機リース会社のAvolon Holdings Limited(以下、Avolon)への30%の出資、米国のローン・アセットマネジメント*会社NXT Capital, Inc.(以下、NXT Capital)の買収などがありました。Avolonに関しては、オリックスの出資が、財務基盤の強化や信用力の向上につながりました。社債格付けが向上したことで、今後の資金調達コストの削

減が見込まれます。また、NXT Capitalは、オリックスグループの国内外の販売ネットワークを最大限活用することで、運用資産の拡大を目指します。

今後の成長戦略として、主に次のような事業機会や収益機会に取り組む方針です。

不動産事業においては、2019年1月にホテル・旅館運営事業の新ブランド「ORIX HOTELS & RESORTS」を立ち上げました。東京オリンピック・パラリンピックや大阪・関西万博という世界中の注目を集める大イベントを控え、訪日観光客のさらなる増加が見込まれる中、新ブランドのもとで新築のホテルや旅館の開業にも挑戦

していきます。また、マンションを中心とした不動産の開発、流通、建物の維持・管理を行う大京を、2019年1月に完全子会社化しました。今後は大京とオリックスの不動産事業部門が一体となり、総合不動産グループとして、大規模な不動産開発プロジェクトへの参画などの新たな取り組みを推進し、中長期的な成長を目指します。

アセットマネジメント事業では、継続的な新規投資を通じて、商品・サービスのラインアップの多様化を進めてきました。欧州、米国、日本における資産運用ニーズを取り込み、グローバルで運用資産残高の拡大を目指していきます。

再生可能エネルギー事業は、日本国内で太陽光発電、地熱発電、バイオマス発電*2を推進するほか、欧州やアジアでも事業の拡大を目指します。

事業投資事業では、これまで蓄積してきたノウハウを活用し、単一の企業に対する投資にとどまらず、ターゲットとする業界全体を俯瞰的に捉え、複数の投資先間でのシナジーを追求することで、投資先企業のシェア拡大や隣接領域への進出につなげます。

国内法人営業では、事業承継支援を拡大していきます。大きな社会課題となっている中小企業での後継者不足に対し、最適なサポートができる支援体制を整えています。

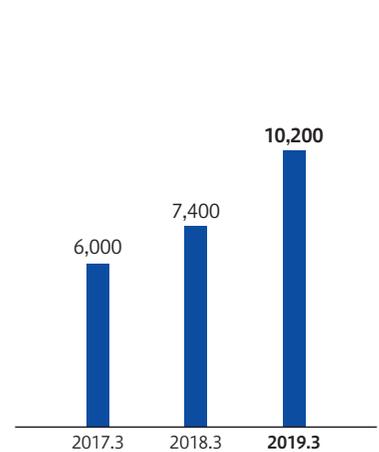
オリックスはこれまで大型新規投資の実績を積み重ねてきました。今後、分野を問わず、収益性と成長性を分析しながら、さまざまな規模での投資を実行していきます。2020年3月期は、既存事業の成長のみならず、2019

年3月期に投資した大型案件の利益寄与も見込まれます。さらにマーケット環境に応じた資産の入れ替えを進めることにより、引き続き利益成長を目指します。

株主還元について

2019年3月期の配当性向は、前期の27%から3%引き上げ、30%としました。通期の配当額は1株当たり76円で、

新規投資額の推移(億円)

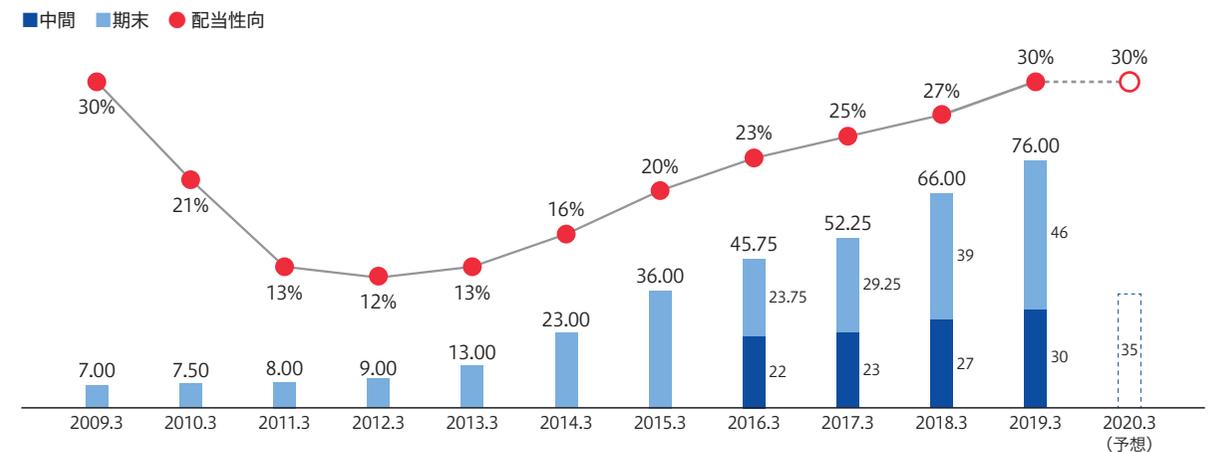


2019年3月期 主な投資案件		
企業名	国	分野
Avolon	アイルランド	航空機リース (投資額:2,500億円)
NXT Capital	米国	ローン組成、資産運用 (投資額:1,000億円)
その他	日本	酪農機械サービス会社など
	米国	通信インフラや公共インフラの設置・保守サービス会社など
	中国	駐車場の運営・管理会社など

中期的な経営目標(2019年3月期~2021年3月期)

利益成長	当期純利益 年間成長率4~8%
資本効率	ROE 11% 以上
健全性	信用格付A格

1株当たり配当金(円)と配当性向(%)



前期の66円と比べ15%の増配となります。

2020年3月期の中間配当予想額は1株当たり35円とします。今後も、利益成長に向けた積極的な投資機会の獲得と、安定的かつ継続的な配当との最適なバランスを重視していきます。

今後の持続的な成長に向けて

オリックスは、財務・税務・法務や多様な事業分野における専門知識と、国内外の幅広いネットワークを有しています。これらを土台として、自らを型に

はめることなく、マーケット環境や社会ニーズの変化を捉えながら新たな領域へと挑戦をつづけてきました。こうして蓄積したノウハウや経験を生かし、投資実行、事業運営、出口戦略までを一気通貫で手掛けられることが、オリックスの強みです。これからも、このような独自のビジネスモデルを研ぎ澄まし、より成熟した強固な事業基盤とリスク管理体制の構築に注力していきます。

オリックスのグローバル展開が加速し、事業がますます多様化するにつれ、株主さまやお客さま、地域社会と

いったステークホルダーの皆さまとの関わりも急速に拡大し、多様化しています。同時に、世界的には、持続可能な開発目標(SDGs)*3に代表されるような社会的課題への取り組みの重要性が高まっています。

ステークホルダーの皆さまとの信頼関係を維持しながら、持続可能な成長を実現するため、SDGsの考え方を積極的に経営に取り入れていきます。そして、事業を通じて環境・社会・ガバナンス(ESG)課題の解決に寄与することで、社会に貢献していきます。

用語解説

*1 **アセットマネジメント**
金融資産や不動産など、さまざまな投資用資産の管理・運用を代行する業務。

*2 **バイオマス発電**
動植物から生まれる生物資源であるバイオマスを燃料とした発電方法。

*3 **持続可能な開発目標(SDGs)**
持続可能な開発のために、国連加盟国が2030年までに達成を目指す目標。

法人金融サービス 事業部門の概況

セグメント利益 **255** 億円

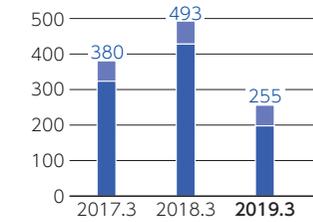


事業内容
金融、各種手数料ビジネス

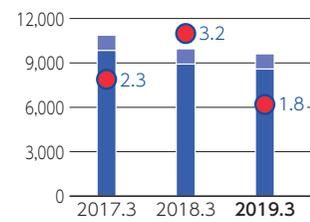
2019年3月期のポイント

- ▶ 前期は、関連会社株式および有価証券の売却益を計上。
- ▶ リース資産の減少に伴い金融収益が低下したものの、各種手数料収入を安定的に計上。

セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)・ROA(%)



メンテナンスリース 事業部門の概況

セグメント利益 **388** 億円

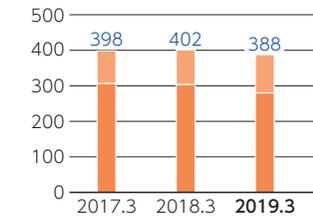


事業内容
自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、電子計測器・IT関連機器などのレンタルおよびリース

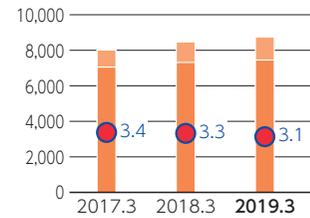
2019年3月期のポイント

- ▶ 自動車事業のリース資産が順調に拡大。
- ▶ 前期に買収した淀川変圧器の収益に加え、IT機器、測定器などのレンタル事業の収益が増加。

セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)・ROA(%)



不動産事業部門 の概況

セグメント利益 **892** 億円

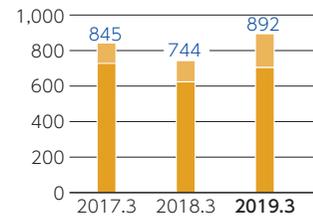


事業内容
不動産開発・賃貸・管理、施設運営、不動産の資産運用

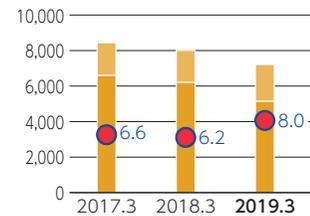
2019年3月期のポイント

- ▶ 引き続き活況な不動産市況を捉え、不動産売却益が増加。
- ▶ 完全子会社化した大京の利益が貢献。

セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)・ROA(%)



事業投資事業部門 の概況

セグメント利益 **382** 億円

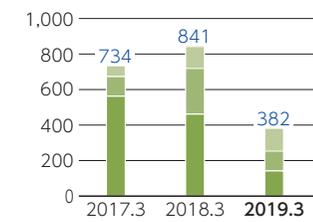


事業内容
環境エネルギー、企業投資、コンセッション

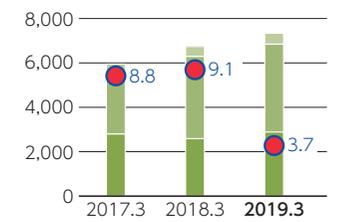
2019年3月期のポイント

- ▶ 前期に比べて、子会社等の株式売却益や投資先から取り込む利益が減少。
- ▶ 太陽光発電事業や、空港運営などのコンセッション事業の利益が増加。

セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)・ROA(%)



リテール事業部門 の概況

セグメント利益 **842** 億円

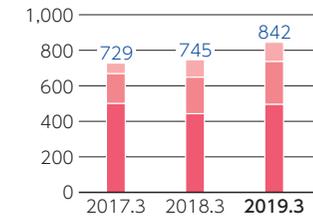


事業内容
生命保険、銀行、カードローン

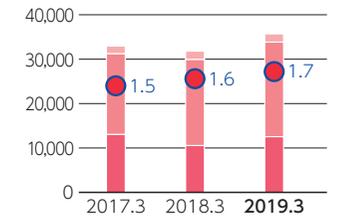
2019年3月期のポイント

- ▶ 生命保険事業において、保有契約の増加に伴い生命保険料収入が伸長。
- ▶ 銀行事業は、住宅ローンなど営業貸付金の増加に伴い金融収益が増加。

セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)・ROA(%)



海外事業部門 の概況

セグメント利益 **1,254** 億円

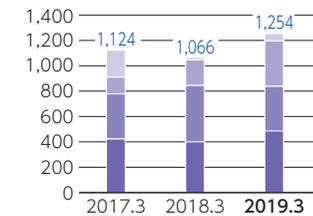


事業内容
アセットマネジメント、航空機・船舶関連、企業投資、金融

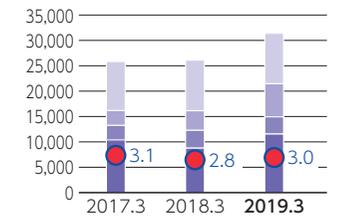
2019年3月期のポイント

- ▶ インドの関連会社で損失を計上するも、米国のローン・アセットマネジメント会社NXTCapitalを買収した米州事業が堅調に推移。
- ▶ 大手航空機リース会社Avolonへの出資もあり、航空機事業の利益が伸長。

セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)・ROA(%)



最新の事業活動トピックスをご紹介します。

中小企業の事業承継支援を推進

オリックスは事業承継支援を推進し、全国の中小企業の事業継続や成長を経営面からサポートします。後継者の不在などに悩む企業の株式をオリックスが譲り受け、中長期的に経営をサポートした上で、次の経営者にバトンを受け継ぐことを目指す取り組みです。

3月には、トンプソントーフ株式会社と株式会社東京ソイルリサーチの2社の株式を譲り受けました。トンプソントーフはゴルフ場の散水設備工事会社で、関東圏を中心としたゴルフ場と強固な取引関係を構築しています。東京ソイルリサーチは業界第3位*の売上高を有す

る地盤調査会社で、社会インフラの修繕や維持管理が課題となる中で、今後さらなる事業機会の拡大が見込まれます。

業績は好調に推移しているにもかかわらず、後継者がいないことを理由に廃業に追い込まれる中小企業は少なくありません。オリックスは、これまで培ってきた営業ネットワーク、金融知識、事業推進力を生かし、中小企業の事業承継支援を拡大していきます。

* 国土交通省「建設関連業の登録業者に関する情報提供システム」にて地質調査業者登録をしている事業者の完成業務売上高の順位。

中国で飲料水の処理設備製造・販売会社を設立

オリックス、東レ株式会社、中国水務集団有限公司(以下、中国水務)は、5月に、中国で飲料水の処理設備を製造・販売する江西銀麗直飲水設備有限公司(以下、江西銀麗)を設立しました。

中国では、給水設備の老朽化などの問題から、ウォーターサーバーや家庭用浄水器が広く利用されてきました。江西銀麗は、東レの膜ろ過技術を導入し、水道からの

直接飲用に適した水を供給する設備を製造します。今後、中国水務のネットワークを生かし、マンション、学校や病院などの公共施設、ホテル、オフィスビルなどへの導入を図ります。

今後もオリックスは、各国で現地のパートナー企業と協業し、社会のニーズを捉えた事業やサービスを展開していきます。

大規模マルチテナント型物流施設 松伏ロジスティクスセンターが竣工



松伏ロジスティクスセンターの共用部分

オリックスが埼玉県で開発を進めていた松伏ロジスティクスセンターが、3月に竣工しました。本物件は、東京外郭環状道路や国道16号へのアクセスに優れたエリアに位置し、最大8テナントが入居できる大規模マルチテナント型物流施設です。また、「働きながら健康を促進する」をコンセプトとし、開放感のある屋外テラスやフィットネスルームなどの共用部分が充実していることが特徴です。

電子商取引(EC)市場の拡大などを背景に物流施設の需要が増加する中で、ほかにも首都圏、関西圏、中部圏でそれぞれ開発を進めている複数物件が今期中の竣工を控えています。これからも、物流施設に適した立地を見極めながら、テナント企業のニーズを捉えた最新鋭の施設を開発していきます。

そのほかのトピックス(2018年12月～2019年5月の主なプレスリリース)

2018年

- 12月 ● 米国の通信インフラの設置・保守サービス会社 NTI Connect, LLCを買収
- 酪農機械を輸入販売する国内大手企業 株式会社コーンズ・エージーへ出資
- 会計ビッグデータとAI技術による「アルトア オンライン融資サービス」を個人事業主に拡大

2019年

- 1月 ● ホテル・旅館運営事業の新たなブランド「ORIX HOTELS & RESORTS」誕生
- 株式会社リクルートとオンライン融資事業で業務提携 飲食・美容業界の個人事業主向けに最短即日の融資を提供
- 2月 ● 欧州大手のレンタカー会社Sixt SEと提携 訪日外国人のレンタカー需要を取り込み
- 「黒部・宇奈月温泉 やまのは」 2019年3月1日リニューアルオープン
- 洋上風力発電の事業性調査を千葉県銚子沖で開始
- 3月 ● イオンプロダクトファイナンス株式会社とオリックス自動車業務提携
- 米ドルで運用する外貨建終身保険を商品ラインアップに追加
- 4月 ● 自社開発の物流施設テナント向けにロボットを無償レンタル 自動搬送ロボットなど、新しく2機種の取り扱いを開始
- 5月 ● 千葉道場ドローン部「Drone Fund 2号」へ出資
- 多様な働き方に対応したサービスオフィス「クロスオフィス六本木」が7月10日開業

オリックスグループ新CM

「やる気MAX! ORIX! はじまる」篇 を放映中!

4月より、オリックスグループの新しい企業CMシリーズの第一弾となる「やる気MAX! ORIX! はじまる」篇を放映しています。新CMには、引き続き、シアトル・マリナーズのイチローさんと、女優の川栄李奈さんにご出演いただきました。オリックスグループの新しい広告コピー「やる気MAX! ORIX!」を自信たっぷりに提案するイチローさんと、「なんかベタすぎませんか」と率直な感想を発するオリックス社員・川栄さんの掛け合いを、臨場感あるドラマ仕立てで描いています。

これまでオリックスグループの企業CMは、「Do you know ORIX?」をキーワードに、水族館事業、農事業、宿泊事業など、生活に身近なサービスや社会性の高い事業を



直筆の広告コピー「やる気MAX! ORIX!」を掲げるイチローさんと、オリックス社員を演じる川栄李奈さん

取り上げてきました。新たな企業CMシリーズでは、「やる気MAX! ORIX!」という新たな広告コピーをキーワードに、オリックスグループの前向きな姿勢やオリジナルな発想を、事業を通してご紹介していきます。今後の展開にも、ぜひご注目ください。

オリックスグループが手掛ける不動産事業の新たな取り組み ～「ORIX HOTELS & RESORTS」誕生～

オリックスグループは、オフィス・マンション・商業施設・物流施設の投資・開発、ホテル・旅館・水族館・研修施設の運営など、多岐にわたる不動産事業を手掛けています。その中で、2019年1月に立ち上げたホテル・旅館の運営事業ブランド「ORIX HOTELS & RESORTS」をご紹介します。

新ブランドのコンセプトは、 「また行きたい、と欲していただけ場所。」

新事業ブランド「ORIX HOTELS & RESORTS」では、「また行きたい、と欲していただけ場所。」をコンセプトに、直接運営を手掛ける12の宿泊施設の魅力をより多くの皆さまに発信していきます。

オリックスグループは、2002年に大分県別府市の「杉乃井ホテル(現:別府 杉乃井ホテル)」を取得。ファイナンスのノウハウを生かし、投資事業の一環としてホテルや旅館の再生を手掛けてきました。絶景を楽しむ露天風呂や、ライブ感があり地域色豊かなビュッフェレストランなど、斬新な発想を取り入れ、お客さまの声に寄り添いながら、これまで約20年間にわたり運営事業のノウハウを蓄積。2017年8

月には、オリックスグループ初の新築旅館「箱根・芦ノ湖 はなをり」をオープンしました。今後は「ORIX HOTELS & RESORTS」のブランドのもとで、新たなホテル・旅館の開業にも挑戦し、次なるステージへの飛躍を続けていきます。

「ORIX HOTELS & RESORTS」は、オリックスグループとして積み重ねてきた経験を土台に、「人生の思い出となるおもてなし」を提供します。また、地域との共存や環境保全など、これまで以上に取り組むべきテーマにも向き合います。そして、お客さまの多様なライフスタイルやニーズに応え、何度でもリピートしたくなる宿泊施設「また行きたい、と欲していただけ場所。」を創造していきます。

新たなブランドのもと、次なるステージへ飛躍

2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2025年の大阪・関西万博の開催を視野に、未来を見据えたホテル・旅館の運営事業を展開していきます。今後は、「ORIX HOTELS & RESORTS」のもと、新たな層のお客さまにも響く魅力づくりを目指し、「箱根・芦ノ湖 はなをり」に続く新築施設の開業など、次なるステージへ挑戦していきます。

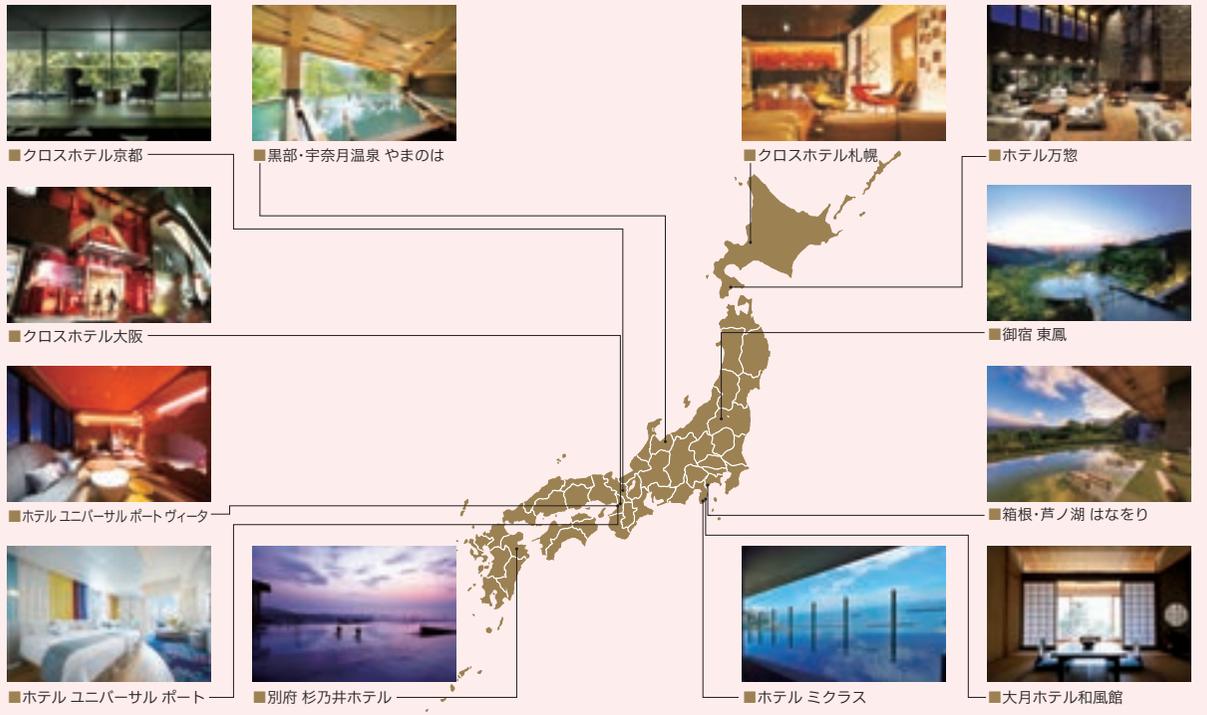
オリックス不動産株式会社 取締役副社長 似内隆晃



「ORIX HOTELS & RESORTS」が日本各地で展開する 12の宿泊施設をご紹介します

「ORIX HOTELS & RESORTS」では、日本各地で展開している12施設を「温泉旅館」「温泉リゾート」「シティ」「パークサイド」の4つのカテゴリーに区分し、旅の目的や利用シーンに合った滞在スタイルをご提案します。日本有数の温泉地である大分県別府温泉に位置し、水着で楽しめる屋外型温浴施設を有する「別府 杉乃井ホテル」は、親子3世代で楽しめる「温泉リゾート」。芦ノ湖を望む水盤テラス

が人気の「箱根・芦ノ湖 はなをり」や、黒部峡谷の景観を楽しめる展望露天風呂が自慢の「黒部・宇奈月温泉 やまのは」など、地域の魅力を体感できる「温泉旅館」。札幌・大阪・京都と日本有数の観光都市に位置するオリジナルホテルブランド「クロスホテル」。ほかに個性豊かなホテルや旅館を運営していますので、旅の目的に合った施設をぜひお選びください。



大京を完全子会社化し、総合不動産グループとして成長を目指す



2019年1月、上場子会社であった大京を完全子会社化しました。大京は、ライオンズマンションを中心とした不動産の開発、流通、建物の維持・管理に強みを持ち、マンションの管理受託戸数は業界第一位*となる53万戸超です。一方でオリックスの不動産事業は、商業施設や物流施設などの不動産開発・投資、宿泊施設や研修所などの施設運営、アセットマネジメントに強みを持ちます。完全子会社化により、両社のノウハウやリソースを共有し、機動的に連携することが可能になりました。今後は、幅広い物件の開発・運営実績をもつ総合不動産グループとして、大規模複合プロジェクトへの参画なども推進していきます。

*全国の総合管理受託戸数グループ別ランキングで大京グループは第1位。
マンション管理新聞(2019年5月25日発行)調べ。(2019年3月時点)

Social Contribution Activities

社会貢献活動



事業を通じた社会貢献に加え、それだけではカバーしきれない社会課題や環境課題に対して、オリックス宮内財団はさまざまな活動を行っています。

「平成30年7月豪雨」の被災地である愛媛県・岡山県・広島県に福祉車両を11台寄贈

2006年度から毎年、日本各地の社会福祉施設に、車いすのまま乗車できる福祉車両などを寄贈しています。2018年度は、「平成30年7月豪雨」の被災地である愛媛県・岡山県・広島県の社会福祉施設10カ所に、合計11台の福祉車両を寄贈しました。

2018年度までに、全国で108カ所の施設に、合計110台の車両を寄贈してきました。2019年度も、さまざまな地域で車両の寄贈を継続していきます。

児童養護施設などの子どもたちを「社会・自然体験教室」に招待 オリックスグループの社員がボランティアとして参加

児童養護施設などの子どもたちと職員の方々を招待する「社会・自然体験教室」を、毎年各地で開催しています。2018年度は、7月に岐阜県、9月に北海道、10月に沖縄県と岩手県、11月に大分県で開催しました。当日は、各地域で働くオリックスグループ社員もボランティアとして参加しています。ここでは、沖縄県と大分県での開催内容について、ご紹介します。



学習教室の一環として行った
うみぶどう摘み

沖縄サンゴ礁移植支援活動 『SANGO ORIX』

約50名の子どもたちと職員の方々と一緒に、毎年、サンゴの苗付け体験とサンゴ礁の生態を学ぶ学習教室を開催。さらに今年は、サンゴの苗付けが終了した後に、オリックスグループが運営する「ヒルトン沖縄北谷リゾート」で食事会を行い、午後は沖縄の郷土菓子づくりを体験しました。



お菓子工場見学

大分県でのお菓子工場・地熱発電所見学

大分のお菓子工場の見学に、45名の子どもたちと職員の方々をご招待しました。工場見学終了後は、オリックスグループが運営する「別府 杉乃井ホテル」に移動し、バイキングレストランでの食事や同ホテルが所有・運営する地熱発電所の見学を行いました。

これからも児童養護施設などの子どもたちが、将来の夢や希望をもって生き生きと成長できるように、「社会・自然体験教室」の開催を通して、さまざまな社会的・文化的活動を体験する機会を創出していきます。



オリックス宮内財団代表理事
(オリックス シニア・チェアマン)

宮内 義彦

オリックス宮内財団代表理事のメッセージ

今日の社会は、豊かさを高めながら、同時に多くの複雑な課題も作りだしています。企業の役割は、主に経済的な課題解決に役立つことを目標に、日々精進することだと考えています。私たちの事業は、常に社会から評価されるものでなければなりません。一方で、事業活動だけですべての課題を解決することはできません。事業活動ではカバーしきれない領域に対しても企業として貢献することが、私共財団の役割だと考えています。

私がこうしたことに気付かされたのは、特に米国において、企業と役職員が協調して寄附文化を育てていると知ったことがきっかけでした。また、事業に集中して取り組んでいると、社会で起きている具体的な問題に気が付かないこともあります。20年以上も前になりますが、ある児童養護施設の子どもたちを、プロ野球の試合に招待したときでした。子どもたちや施設の職員の方々と接する中で、家庭環境や経済的な事情など、子どもたちが施設で暮らすさまざまな理由を知りました。私たちが想像している以上に、子どもたちを取り巻く社会環境は、複雑で深刻な問題を抱えていることを実感したのです。

オリックス宮内財団は、社会福祉、将来を担う子どもへの支援、環境保全、文化芸術などの分野で支援活動を続け、企業財団として13年が過ぎました。企業に求められる役割がより一層多様化する現在、真に「豊かな社会」の実現に寄与することを目指し、これからも活動を続けてまいります。



ORIX BUFFALOES News

オリックス・バファローズ ニュース

日頃より、オリックス・バファローズにご声援をいただき、ありがとうございます。今シーズンより指揮を執る西村徳文監督のもと、『Be Aggressive #超攻撃型』をキャッチフレーズに掲げ、走攻守においてミスを恐れず積極的に戦います。引き続き、変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。



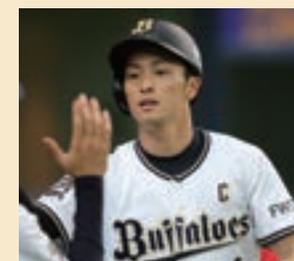
©ORIX Buffaloes

PICK
UP
NEXT



榑原翼 選手

4月に挙げたプロ初勝利は、球団の育成出身投手では初の快挙。マウンドでの気迫あふれる投球とは対照的に、素顔は屈託のない笑顔が魅力のチーム一の愛されキャラです。



福田周平 選手

入団二年目にしてキャプテンに抜擢された若きチームリーダー。身長167cmとチーム一小柄ながら俊足好打で、アグレッシブにチームを盛り立てます。チームの躍進に彼の活躍は欠かせません。



“#超攻撃型”応援スタイル『ラリーキャップ』

『ラリーキャップ』とは、MLBではお馴染み、キャップをひっくり返してかぶり、チームの逆転勝利を願うおまじないです。厳しい試合も『ラリーキャップ』で逆転を目指します！

Corporate Information

企業情報

会社情報 (2019年3月31日現在)

会社名	オリックス株式会社
設立	1964年4月17日
代表者	取締役 兼 代表執行役社長・グループCEO 井上 亮
従業員数(連結)	32,411名
事業内容	多角的金融サービス業
拠点数*	国内 1,466拠点 海外 730拠点

* 世界37カ国・地域に展開しています。

株式情報 (2019年3月31日現在)

発行会社	オリックス株式会社
発行可能株式総数	2,590,000,000株
発行済株式の総数	1,324,629,128株
株主数	444,476名

所有者別株主構成比(株式数)



株主名簿管理人

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1

 0120-232-711 受付時間:9:00~17:00
(土・日・祝日休み)

上場金融商品取引所

東京証券取引所市場第一部[8591]
ニューヨーク証券取引所[IX]

株式事務に関するお問い合わせ先

株主さまの各種お手続き(住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取・買増請求など)の窓口については、ご所有の株式が記録されている口座によって異なりますので、ご注意ください。

証券会社に口座を開設されている株主さま

お取引口座のある証券会社にお問い合わせください。

「特別口座」に記載されている株主さま

当社の口座管理機関(兼 株主名簿管理人)である三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部(上記)にお問い合わせください。

オリックスの情報発信サイト「MOVE ON!」

新たな気づきや活力をお届けする情報発信サイトを開設しました。



オリックスグループサイトのトップページから「MOVE ON!」をご覧ください。

https://www.orix.co.jp/grp/move_on/

「MOVE ON!」では、社会・経済・技術の変化とオリックスの関係についてご紹介するオリジナルコンテンツのほか、時代の潮流を捉えた海外メディアコンテンツを厳選して発信していきます。

オリジナルコンテンツの第一弾として、早稲田大学大学院経営管理研究科(ビジネススクール)の入山章栄教授のインタビューを掲載しています。イノベーションを生み出すためのヒントや、オリックスが目指す「知の融合」という考え方についてご紹介していますので、ぜひご覧ください。

そのほか、3月に現役引退を発表したシアトル・マリナーズのイチローさんへの感謝を表現したウェブ限定コンテンツや、テレビCMなども掲載しています。今後もコンテンツを追加していきますので、ご期待ください。

ウェブ限定コンテンツ



入山教授インタビュー記事



オリックス株式会社 経営計画部/グループ広報部

〒105-6135 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル

URL : <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/>